

シラバス確認

シラバス入力 > シラバス確認

印刷する

更新

開講年度 Academic year	2025年度		
講義コード Course title (Japanese)	0A2000103		
講義名 Course title (Japanese)	企業論		
英文講義名 Course title (English)	Theory of Firms		
(副題) Course subtitle			
開講責任部署 Faculty			
講義開講時期 Semester (s)	後期	講義区分 Type	講義
単位数 Credit hour (s)	2	時間 Total hours	0.00
代表曜日 Day	月曜日	時限 Period	1 時限
校地 Campus	本キャンパス(駅東通り)		

所属名称	ナンバリングコード
	B1-MAN116LJ

担当教員 Lecturer (s)			
職種 (専任教員・非常勤教員) Position (Full-time/Part-time)	担当教員名 Lecturer (s)	実務経験の有無 Work experience	所属学部 Department
専任教員	◎ 西谷 勢至子		経営学科

授業の内容 (主題) Course description	<p>本講義の目的は、企業の性格と機能、そして「それらがどのように変化してきたのか」を理解することによって、現代企業が抱える課題とマネジメントについて検討することにある。</p> <p>現代の企業観は、大規模化によってもたらされた、企業の質的变化、企業の性格の変容に起因する。本講義では主として、企業観の変化とその理由・背景について、経営学の観点から焦点をあてる。また、取引コスト論とケイバリティ論の研究成果から、「企業はいかに事業領域を決定するか(すべきか)」といった企業境界の問題に焦点をあてることで、企業を取り巻くビジネス環境とその動向についても学習する。</p>
到達目標 Course objectives	<ul style="list-style-type: none">・企業の基本的性格・役割、古典的な企業観と現代の企業観、そしてその変化とその理由について説明できる・現代企業の抱える問題を説明できる。そしてそれらの問題に対し、自らその解決方法を考え出せるようになる
ディプロマポリシーとの関連 Accordance with diploma policy	

◎：非常に強く関連する
 ○：強く関連する
 △：関連する
 空欄：該当しない

①二十一世紀の社会の発展と地域の産業、経済、文化等の活性化に貢献できる能力	◎
②激変する国際社会の中にあつて、十分な異文化理解のもとに、長期的で広い視野に立って将来を展望し、行動できる能力	○
③本格的な高度情報社会において、最新の情報を的確に入手し、それを有効に活用したうえで効果的に情報を発信できる能力	○
④自らの判断、努力と責任に基づいて、社会に積極的に貢献できる豊かな教養と柔軟な思考力	○

授業計画表
 Course plan

回 Class sessions	内容 Topics	予習・復習 Expected work outside of class
第1回	現代企業をみる視点	予習2時間、復習2時間
第2回	大企業としての企業	予習2時間、復習2時間
第3回	バーリの大企業論	予習2時間、復習2時間
第4回	バーリの大企業論	予習2時間、復習2時間
第5回	バーリの大企業論	予習2時間、復習2時間
第6回	チャンドラーの大企業論	予習2時間、復習2時間
第7回	チャンドラーの大企業論	予習2時間、復習2時間
第8回	ドラッカーの大企業論	予習2時間、復習2時間
第9回	ドラッカーの大企業論	予習2時間、復習2時間
第10回	ドラッカーのマネジメント	予習2時間、復習2時間
第11回	規模の経済と範囲の経済	予習2時間、復習2時間
第12回	ネットワーク外部性	予習2時間、復習2時間
第13回	企業境界	予習2時間、復習2時間
第14回	取引コスト理論	予習2時間、復習2時間
第15回	ホールドアップ	復習4時間

授業計画コメント Course outline	授業開始時に前回とのつながりについて説明を行うため、他の回との流れを意識して授業に取り組むこと。
授業の進め方 Session plan	適宜課題を行い、理解度を確認しながら進めていく。
アクティブラーニング Active learning	授業では質疑応答や課題を通じて受講生が授業で得た知識を自らの関心に合わせて使えるようにすることを目指している。
授業時間外の学修（予習・復習等） Preparation and review outside classroom hours	授業で出てきたキーワードや項目についてインターネットやデータベースを用いて調べておくこと。

教科書等
 Textbooks and materials

	タイトル Title	著者名 Author (s)	出版社 Publisher	出版年 Year of Publication	価格 Price	ISBN
1						
2						
3						
4						
5						

(必ず購入すべきもの) Materials required for sessions	特になし
参考図書 Reference book (s)	『企業論』三戸浩／勝部伸夫／池内秀己著、有斐閣、2006年 『ケイパビリティの組織論・戦略論』渡部直樹著、中央経済社、2010年
成績評価方法および評価基準 Evaluation criteria	

	定期試験 Tests	授業内小試験 In-class quizzes	レポート・課題 Reports/Assignments	受講態度 Class Attitude
評価比率% Evaluation ratio	100%	0%	0%	0%
成績評価の方法に関する注意点 Assessment criteria	成績評価は定期試験によって行うが、試験は複数回行う「レポート・課題」に取り組んでいることを前提とした問題を出題する。			
課題のフィードバック Feedback	・課題に対する学生による質問に対しては講義時に説明を行う			
学生へのメッセージ（履修上の心得） Message to students (class guidelines)	本講義は前の授業内容の理解を前提とするために、履修者は授業前に前回の講義内容を復習しておくことが求められる。			
科目のレベル、前提科目など Level / Prerequisites	経営学より専門的な内容の学習を目的とするため、経営学の単位を取得した上で履修することが望ましい。授業内容で不明確な部分は積極的に質問すること。			
オフィスアワー/学生からの連絡方法 Office hours/Contact Information	火 4 限（本キャンパス：707研究室）			
キーワード Keyword(s)	企業、経営、所有、マネジメント			